

(公財) コープともしびボランティア振興財団

2020 年度事業計画

<基本方針>

助け合い支え合う地域社会を みんなの力で

<課題>

1. まちづくりの一翼を担う中間組織として、地域課題の解決に取り組む団体や人、ネットワークを支援します
2. 地域に当財団の活動への共感者、支援者をさらに広げます
3. 財団の基盤の安定化をめざし、資金調達と事務局機能の強化をはかります

I. まちづくりの一翼を担う中間組織として、地域課題の解決に取り組む団体や人、ネットワークを支援します

1. ボランティア活動助成

(1) 募集および申請状況

募集に関する広報は、当財団ホームページ、コープこうべホームページ、機関紙「きょうどう」で行いました。また、社協や行政その他の中間支援組織経由でのチラシ配布等を行い、申請状況は下記のとおりです。

県内9会場で開催した助成金説明会では、当財団の成り立ちや、助成の目的、特徴を理解いただいた上での申請をお願いしています。また説明会の後半に参加グループ同士の紹介・交流の時間を設け、ネットワークづくりの場としています。

	申 請 (グループ数 / 金額(円))	助 成 (案) (グループ数 / 金額(円))
福祉等	198 / (72) 15,561,000	154 / (65) 7,378,000
環境	19 / (3) 1,834,000	16 / (3) 1,380,000
合計	217 / (75) 17,395,000	170 / (68) 8,758,000

() 内数字はきりり助成数で内数

(2) 選考について

①選考基準

ボランティア活動助成の募集要項に、下記の選考基準を記載し公開しています。

- ◇活動の公益性：課題把握、公益性
- ◇社会貢献度：活動の必要性、実効性、地域の理解・共感
- ◇活動の継続や発展性：運営能力、チャレンジ性、広報力
- ◇収支の妥当性：助成金使途の妥当性、適切な受益者負担、会計能力
- ◇循環型のしくみへの理解

②選考方法

助成検討委員には、選考基準に基づいて評価いただき、その評価点を事務局で集約しました。助成検討委員会（3月2日に福祉分野、3月6日に環境分野開催）では、その結果と、2020年度の助成予算を勘案しながら討議し、助成案をまとめました。

2020年度ボランティア活動助成は、2018年度から開始した少額助成「きらり助成」（上限1.5万円の助成）と、「ともしび助成」（上限30万円の助成）の2つの枠組みで募集を行いました。「きらり助成」については、コープこうべ地区本部長による選考会で第1次選考の後、助成検討委員会で協議しました。「ともしび助成」は助成検討委員会で選考、助成案をまとめました。

(3) 今年度の特徴

①「きらり助成」への申請が増加

この助成は少額助成ですが、申請書が「ともしび助成」に比べて枚数が少なく書きやすいこと、交通費や個人へのプレゼント代など、ともしび助成では対象外となる経費も申請できることから、2018年度のスタート時から好評を得ています。今年度も、地域の小さな新規グループからの申請が大きく増え、既存・新規合わせて、75グループがこの枠に申請しました。

②申請グループ数

申請グループ数は公益認定以来最大となりました。新規申請グループ数も、同様の傾向です。

年度	申 請 件 数						
	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
福祉	144	155	152	146	175 (35)	169 (51)	198 (72)
環境	30	28	36	37	26 (2)	24 (2)	19 (3)
合計	174	183	188	183	201 (37)	193 (53)	217 (75)

※（）内はきらり助成数で内数

年度	上記のうち、新規申請件数						
	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
福祉	21	23	30	42	65	50	70
環境	4	3	9	7	5	6	3
合計	25	36	39	49	70	56	73

(単位:円)

助成年度	平均申請額	平均申請額	申請件数	平均申請額
	(福祉分野)	(環境分野)		(全体)
2012	64,919	60,885	161	64,267
2013	73,652	63,581	172	71,837
2014	76,681	60,133	174	73,828
2015	82,084	58,893	183	78,505
2016	91,230	88,417	188	90,691
2017	94,308	91,135	183	93,667
2018	86,197	100,692	201	88,072
2019	78,751	104,875	193	82,000
2020	78,590	96,526	217	80,161

※2018年度から新設した「きらり助成」の新設により、平均申請金額は減少傾向

(4) 2020年度助成

分野別助成一覧

	分野	対象者	件数	助成額(円)	助成構成比(%)
①	福祉	高齢者	43	1,233,000	14.1
		障がい者	21	1,025,000	11.7
		地域住民	8	273,000	3.1
		在日外国人	2	170,000	1.9
		施設・病院	4	94,000	1.1
		その他(がん患者)	2	133,000	1.5
		合計	80	2,928,000	33.4
②	まちづくり		16	1,139,000	13.0
③	文化・芸術		6	90,000	1.0
④	地域安全		0	0	0.0
⑤	防災・減災		2	298,000	3.4
⑥	多文化共生		2	143,000	1.6
⑦	子ども育成		47	2,717,000	31.0
⑧	環境		16	1,380,000	15.8
⑨	その他(フードバンク)		1	63,000	0.7
合計			170	8,758,000	100.0

(5) 助成決定後のサポート

①交流会の開催

5月21日に助成グループが集う「市民活動交流会 2020」を開催し、情報交換や、地域課題の共有化を行います。また、希望により分野別交流・研修会を開催し、ネットワークづくりやステップアップの機会とします。

②スタッフによる相談や訪問の実施

運営や、報告用紙の書き方などの相談に個別に対応します。また、スタッフが可能な限り、助成グループを訪問し、助成グループのとらえている地域課題を共有したり、困りごとの相談に応じます。

③ともしび通信や情報の提供

年4回発行の「ともしび通信」とともに、他の助成金情報、研修会の案内など、助成グループの皆さんに役立つ情報を送付していきます。

④助成グループへの広報協力

広報についての困りごとが多く寄せられることを受け、チラシ作成やネット印刷の方法について、具体的に学べる講習会を希望に応じて個別に実施します。また、グループからの情報を当財団のホームページにタイムリーに掲載し、グループの広報をサポートします。

2. 社会人の学びと研究助成

(1) 2019年度助成対象者の報告会の開催

「活動現場をすでに持っている社会人が、学びを深め、地域に還元するための助成」として、2019年度は下記のお二人を助成しました。2020年度は7月（予定）に公開報告会を開催します。

お名前	在籍する大学院	研究内容
延原 宏	放送大学大学院 文化科学研究科情報学専攻 修士課程	ICT（通信技術を活用したコミュニケーション）による地域活性化プロジェクトの実践と授業モデルとしての教育効果
大島 賢典	神戸学院大学大学院 総合リハビリテーション学研究科医療リハビリテーション学専攻 博士課程	認知機能低下及び認知症患者における転倒リスクの検討～介護予防 日常生活支援総合事業対象者における歩行教室による運動機能への効果～

第3次中期計画の中で、高校生のボランティア顕彰など新たな分野の開発に取り組むため、2020年度の社会人の学びと研究助成の募集は中止します。

3. 社会的課題解決にチャレンジする団体への申請募集と選考

(1) 「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」助成4年目

財団と志を同じくする企業から寄付金をいただき、「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」を立ち上げ、2017年度に2件、2018年度は3件、2019年度は6件の助成を実施しました。

2020年度は新たに企業3社の賛同を得て、21社からの寄付総額は240万円（1社は2020年4月に入金）、それに昨年度の未使用分14万5千円を合わせ、254万5千円の予算で助成を行います。

社会的課題を解決するために活動しているグループを対象とし、4月から募集を開始します。申請書による1次選考ののち、7月8日に公開プレゼンテーションによる2次選考を行います。2次選考会には、財団の運営委員や、学識者、賛同企業などに参加いただき、選考委員の皆さんで助成グループを選出・決定いただきます。

このプロジェクトで助成するグループは法人格の有無を問わないものとし、社会的課題解決にチャレンジするグループに門戸を広げます。

●助成予算 254万5千円 上限 50万円/グループ

4. 高校生の心豊かな育ちとボランティア人材の育成支援

(1) 高校生がボランティア活動を通して心豊かに育ち、次代の地域の担い手になることを願い「高校生のボランティア顕彰」を実施

第3次中期計画の中で、若い世代のボランティア人材の養成が計画の柱の一つとして位置付けられました。これに基づき、2019年度から「高校生のボランティア顕彰」をスタートしました。2020年度もさらに多くの学校の参加をめざし、募集します。

決定後には参加者による活動交流を行い、互いに認め合う場をつくります。

●顕彰予算 50万円

5. ひと育て、学びや交流の場の充実

(1) 社協と連携し、地域の活動者どうしの交流の場づくり

地域で活動するボランティアグループの交流のための試みとして、2019年度は神戸市須磨区を中心に活動するグループ同士の交流会を須磨区社協、コープこうべ第3地区本部とともに、2月に開催しました。2020年度はこれをモデルケースとして、他の社協とも取組みを広げます。

(2) 地域における仕事づくりや役割づくりの促進

先進事例についての報告・交流会や、視察等を行い、地域における仕事や役割づくりを促進します。

(3) ネットワークによる地域づくりの研究

ネットワークや連携による地域づくりについて、学び合うセミナーを開催し、次年度以降の助成につなげます。

(4) 地域でのボランティアやくらしの課題の学びを支援

下記の4つの柱を基にした講座を開催するグループや団体を後援、協力します。

- ①ボランティア活動の裾野を広げる講座
- ②グループマネージメントを強化する講座
- ③ボランティアグループの技術向上と継承をサポートする講座
- ④社会的課題を考える講座

6. 2021年度「ボランティア活動助成」に向けて

(1) 2021年度の「ボランティア活動助成」 説明会の実施と選考

2021年度助成に向け、「ボランティア活動助成」の申請に先立ち、下記9会場で説明会を行います。

説明会后、申請資料の受付を開始し、1月8日締切後、3月の助成検討委員会で、2021年度助成案を作成します。

日時	開催エリア	会場（予定）
10/30（金）	神戸市 中央区	神戸市立総合福祉センター
11/4（水）	姫路市	姫路じばさんびる
11/5（木）	宝塚市	ピピアめふ
11/9（月）	篠山市	篠山市民センター
11/10（火）	神戸市 東灘区	コープこうべ 生活文化センター
11/18（水）	明石市	ウィズ明石
11/19（水）	西宮市	西宮市民会館
11/24（火）	三木市	コープこうべ 協同学苑
11/28（土）	神戸市 東灘区	コープこうべ 生活文化センター

II. 地域に当財団の活動への共感者、支援者をさらに広げます

1. 当財団の活動を積極的に広報し、共感を広げる

(1) ともしび通信の発行

同媒体は、当財団の機関紙として、3カ月ごとに、約5000部発行し、ホームページでも公開しています。送付先は、賛助会員、寄付者、助成グループのほか、コープ店、中間支援組織、行政、社協、企業などですが、コープ店、中間支援組織や行政へは複数枚送付して、地域の人々にも配布いただいています。

2020年度もさらに内容の充実を図り、地域に財団の活動への共感を広げます。

(2) 地域のまつりに積極的に参加

2019年度は財団の事務所のある東灘区で開催された、「秋祭り～住吉ファミリー」に参加し、財団の活動を紹介しました。2020年度も、同様の祭りに積極的に参加し、地域に財団への認知を広げます。

(3) ツムギスト（広報ボランティア）の活動を継続

グループを実際に訪問し、活動の状況や、活動によって地域や参加者がどう変化したかなどについて話を聞き、”物語“を紡ぐボランティア（「ツムギスト」）の活動を継続します。できるだけ多くのツムギストにグループを訪問してもらい、活動の現場のレポートを当財団のホームページに掲載します。

2. 「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」関連イベントの開催

(1) 賛同企業とのコラボイベント開催

賛同企業とのコラボレーション企画として、地域の人が参加しやすいイベントを開催することで、これまで財団に関心のなかった層へ財団への関心を掘り起こします。また、賛同企業のとらえている社会的課題と、それらに対する貢献活動も広報することで、同プロジェクト全体への共感者を増やします。

2020年度は、「カゴメ株式会社」「アサヒ飲料株式会社」などとのコラボレーションで、食と環境の学習に取り組みます。

3. コープこうべの関連部署や組合員組織と連携し、広報活動を推進

- (1) コープこうべの職員教育の一つである「コープヒューマンケア研修」で当財団の第3次中期計画冊子が事前課題図書として活用されます。昨年度は所属長が対象でしたが、2年目の2020年度は所属長による推薦者が対象です。
- (2) コープ委員会の学習会、店舗で開催される学習会「レインボースクール」に財団についてのテーマでエントリーし、地域での学習会開催につなげます。
- (3) 広報室と連携し、計画的でタイムリーなマスコミリリースを行います。
- (4) 財団サポーター（現在64名）の登録を増やし、広報活動への参加・協力を呼びかけます。

Ⅲ. 財団の基盤の安定化をめざし、資金調達と事務局機能の強化を図ります

財団に助成を求める新規グループは増加しており、今後ますます資金調達の必要性が高まっています。マイナス金利の続く中、債券運用はますます厳しい状況ですが、財団のミッションを果たすために、資金調達方法を多様化し強化します。

1. 資金調達の強化

(1) 2020年度 賛助会費・寄付・募金の目標 (単位: 円)

2020年度の賛助会費・寄付・募金の総合計 15,100,000円を目標とします。

(2) 法人からの寄付および法人賛助会員の募集の強化

「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」は、初年度賛同企業7社、寄付金額100万円からスタートしましたが、現在は21企業から総額240万円の寄付を得ています。2020年度もコープ協力会などで、賛同企業とともに新規の法人賛助会員への呼びかけも行います。

(3) 集中募金を10月に実施

毎年10月、コープこうべの地域活動推進部が窓口になり、財団への集中募金に取り組んでいただいています。良い機会として、募金の呼びかけを強化します。

(4) 「古本募金 きしゃぼん」のさらなる拡大

2016年7月にスタートした「古本募金 きしゃぼん」は財団らしい取り組みとして、2019年度は約87万円の募金になりました。古本回収ボックスを設置する事業所はコープの店舗等34カ所に増え、地域のイベントの一つとしても取り組んでもらえるようになってきました。

2020年度は、さらに寄付額の増加をめざします。

(5) 古切手、書き損じハガキの回収

2020年1月に、古切手、書き損じハガキの回収を呼びかけました。大変多くの切手、ハガキが集まりましたので、2020年度も年明けに同様の回収の呼びかけを実施します。

(6) 先進事例の学習と検討

外部団体などによる資金調達の成功例について、ホームページやセミナー、訪問などにより、研究を進め、当財団でも可能なものについて検討します。

(7) 基本財産の運用

今年度も運用規則にのっとり、適正に運用を検討していきます。

2. 財団の基盤、人材育成の強化

(1) 財団スタッフの人材育成

第3次中期計画の実現のためには、財団のスタッフとして、ボランティアコーディネータ力、ファンドレイズ力の向上が求められています。内外の研修へ積極的に参加することで、スキルアップを図るとともに、外部団体との交流の機会を増やし、ネットワークづくりを促進します。